

4～6月の催し・教室スケジュール

▼企画展・イベントなど

- 開催中～5月11日(日)／こんこん山花さんぽ～虹色の風～
- 4月19日(土)・20日(日)／えびね展
- 4月24日(木)／牧野富太郎生誕記念 無料開園「マキノの日」
- 5月17日(土)・18日(日)／ヤマアジサイ展
- 5月22日(木)～25日(日)／さつきまつり
- 5月中旬～下旬／ガンゼキラン大群落の限定公開
※開催日は開花状況により決定します
- 6月6日(金)～8日(日)／サボテンと多肉植物展
- 6月14日(土)～7月6日(日)／初夏のガーデンツアー ※期間中の土日

▼教室

- 4月19日(土)／くらしの植物教室「バンドルダイで染めて楽しむ～春の草花」
- 5月11日(日)／ふむふむ子ども教室「春の新茶をつくって飲む!」
- 6月1日(日)／
ハーブの教室「ローズと英国香草のブレンドハーブティ2種づくり」
- 6月28日(土)／
ふむふむワークショップ「多肉植物のミニ寄せ植えづくり」 **当日受付**
- 毎月第2水曜日・第4日曜日 10:00～／草花を描く
※4月のみ第2水曜日・第3日曜日
- 毎月第2水曜日・第4日曜日 13:30～／ふれあい植物観察会
※4月のみ第2水曜日・第3日曜日

【教室の申込方法】

当園ホームページの「イベント・植物教室」のなかの植物教室ページ、またはFaxからお申し込みください。入園窓口でも直接お申し込みいただけます。

▼キッズラボプログラム

- 4月19日(土)／研究者になりきってみよう! **幼児対象**
- 4月27日(日)／
土の上じゃなくても生きられるの?～“着生ラン”の世界へようこそ～
- 5月10日(土)／
バスボムづくり～植物の力と泡が発生するしくみについて学ぼう～
- 5月25日(日)／ガンゼキランにせまる～継代培養に挑戦～
- 6月14日(土)／
葉を観察してみよう～まるで貯水タンク!?ぷっくり肉厚 多肉植物編～
- 6月29日(日)／染めて学ぼう～青への変身～

【キッズラボプログラムの申込方法】

当園ホームページの「イベント・植物教室」のなかの植物教室ページからお申し込みください。電話、Fax、入園窓口、および当日会場ではお申し込みいただけません。あらかじめご了承ください。

【各種お申し込みについて】

- 申込先 ホームページ www.makino.or.jp
 - 申込開始日
教室・キッズラボプログラム 開催前月の第1水曜日 9:00～(先着順)
- ※イベント・教室等の内容を変更または中止させていただく場合があります。最新情報はホームページでご確認ください。

Information

牧野植物園からのお知らせ

本館・中門窓口前のデジタルサイネージで放映している、昆虫や鳥の写真をご覧になったことはありませんか?これらの写真を撮影したのは、高知市内にお住まいの濱田周平さん。濱田さんは年間200日以上来園すること約10年、園内で目に留まった個性豊かな生きものを撮り続けてきました。その写真のなかから毎月10枚ほど厳選し、当園へお送りいただいています。入園時に少しだけ足を止め、どんな生きものと出会えるか、散策の楽しみの一つの参考者してみてください。



Shop information

レストランからのお知らせ

レストランC.L.GARDEN

春の訪れが感じられるピンク色の「まきのロール」が期間限定で登場。生地にいちごパウダーを使用しているため、ほのかにいちごの甘酸っぱい香りがします。春色に染まった華やかな南国をご覧になりながら、ほっとひと息、ティータイムはいかが?



春のまきのロール
420円(税込)
提供期間:5月末ごろまで

周遊観光バス「MY遊バス」のご案内

- JR高知駅から牧野植物園までMY遊バスで約30分
- MY遊バス乗車券を牧野植物園の窓口に提示で、入園料100円引き
- 料金／[五台山券 (JR高知駅→竹林寺前)]
大人(中学生以上)900円 こども(小学生)450円
- MY遊バスに関するお問い合わせ
運行について／とさでん交通(株) Tel 088-833-7171
乗車券について／(公財)高知県観光コンベンション協会 Tel 088-823-1434

高知県立牧野植物園 ご利用案内

- [開園時間] 9:00～17:00(最終入園16:30)
- [休園日] 年末年始(12/27～1/1)
- [メンテナンス休園日] R7/5/26、6/30、7/28、8/25、9/29、10/27、11/25
- [入園料] 一般850円(高校生以下無料)
団体750円(20名以上)、年間入園券2,500円
※令和7(2025)年4月1日改定
- ※身体障がい者手帳、精神障がい者保健福祉手帳、療育手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳所持者と介護者1名および高知市・高知県長寿手帳所持者は無料
- [交通案内]
はりまや橋から車で約20分
高知自動車道「高知IC」から一般道で約20分
高知東部自動車道「高知南IC」から約15分
高知龍馬空港から高知東部自動車道経由で約25分
※道路案内板の「五台山」または「牧野植物園」「竹林寺」を目指してお越しください。

高知県立牧野植物園 友の会 会員募集

- [特典] ※会員ご本人のみの特典です。
- ①窓口で会員カードを提示していただくと、入園料無料。
- ②「牧野植物園だより」(年4回発行)や、催し物案内を定期郵送します。
- ③牧野植物園が主催するイベントや教室に会員価格で参加できます。
- ④会員限定の園内&バックヤードツアーにご参加いただけます。
- ⑤本館のカフェ arbore、ボタニカルショップ nonoca ご利用時にカードを提示していただくと、現金でのお支払い時のみ5%の割引が受けられます。(植物研究交流センター3階のレストラン C.L.GARDEN および牧野ミュージアムショップ サクラでの適用はありません。また一部割引除外品があります。)
- [会費] 普通会員/年額 4,000円 賛助会員/年額 10,000円
[お申し込み・お問い合わせ] 088-882-0448 友の会担当まで



牧野植物園ロゴマーク:バイカオウレンの葉

バイカオウレンは、早春に小さな白い花を咲かせます。高知では春一番を告げる花として、牧野富太郎博士が特に好んだといわれています。晩年東京で暮らした牧野博士にとって故郷を想わせる懐かしい植物でした。

高知県立牧野植物園だより No.99 令和7(2025)年3月31日発行

[編集・発行] 公益財団法人 高知県牧野記念財団
〒781-8125 高知市五台山4200-6 高知県立牧野植物園
Tel 088-882-2601 Fax 088-882-8635
[印刷] 有限会社 西村書写堂

www.makino.or.jp



高知立 牧野植物園だより



キシツツジ [ツツジ科]
Rhododendron ripense Makino

岡山県以西の中国地方・四国・九州(大分県)に分布する半常緑低木。増水時のみ水に浸かるような川岸の岩場に生える溪流沿い植物の一つ。葉は細長い楕円形で両端が尖る。大型の花は淡紅紫色で、4～5月に葉の展開とともに咲き、川岸を染める。牧野富太郎博士が明治41(1908)年に新種として発表し、種小名にripense(on the river-bank 川岸に生えるの意)を与えた。この時、和名には土佐の方言としてイソツツジと付けた。

News

園長交代のお知らせ

高知県立牧野植物園 園長が交代いたします。

現園長の川原信夫氏は、令和3(2021)年4月に第17代園長として就任し、新型コロナ禍の最中、魅力的な園地の植物による“癒やし”効果の提唱、高知県産を中心とした植物の有効活用および情報発信による高知県の観光や産業振興に資する「植物を通じた社会貢献」を目標として運営にあたられました。



また、薬用植物学・生薬学の専門家の立場から、牧野植物園の持つ研究リソースの活用や薬用植物の栽培の分野で、県内外の大学・研究機関・企業と共同で研究の推進に尽力されました。さらに園内の薬用植物に関連するガイドツアーやイベント時のインフォメーションを自ら担当し、来園者の方々と交流されました。



在任期間中の主な出来事

- 令和4年 牧野富太郎生誕160年
- 令和5年4月 連続テレビ小説「らんまん」(NHK)放送開始
- 5月 植物研究交流センター オープン
- 日本植物園協会第58回大会 開催
- 令和6年2月 「高知市観光功労者」として当園が表彰される
- 3月 年度入園者数が過去最高の466,200人を記録

ご挨拶

このたび、高知県立牧野植物園長を拝命しました高野昭人と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。令和5(2023)年度前期の連続テレビ小説「らんまん」(NHK)の放送により、牧野富太郎博士の功績に改めて注目が集まり、高知県立牧野植物園の存在も日本中に広く知れわたるところとなりました。牧野植物園の入園者数が格段に増えたことはもちろんですが、日本各地の植物園でも牧野博士に関するイベントが開催されました。このようなタイミングで本植物園の園長に迎えていただくことは、植物園に関係してきた者にとって大変光栄なことでもあります。

私はこれまで大学の薬用植物園に30年ほど勤務し、薬用植物・生薬の研究を行ってきましたが、植物を扱う研究の基盤は植物分類学にあると考えています。学生時代の研究テーマは「蒲公英」で、春先には日本中をまわってタンポポを採集していました。四国では、カンサイタンポポ、シロバナタンポポ、クシバナタンポポ、ヤマザトタンポポなどを採集した記憶があります。一方で、大学院生時代に海外学術調査隊に参加する機会に恵まれ、ヒマラヤ地域で薬物資源の調査を行いました。その後も各地で調査を行い、近年はウズベキスタンで調査を行っています。途中、資源植物学、植物インベントリーという考え方に会い、大いに刺激を受けました。私が牧野植物園長を引き受けさせていただいた理由の一つは、私がこれまでの研究の中で必要としたものがこの植物園には揃っているからです。

本植物園には、牧野博士にゆかりのある植物や高知県内に自生する植物などが自然環境を活かして植栽されていて、牧野博士

を本当に好きな職員が集まっていると聞いています。また牧野博士が収集した腊葉標本や貴重な書籍も大切に保存されています。私はこの植物園に在るだけで、いろいろなことを発見し、学ぶことができるのではないかとワクワクしています。基体力不足な私ではありますが、植物園内外の皆さんの力をお借りし、一緒に牧野植物園のさらなる発展のために努力していきたいと思っていますので、皆さまのご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

高野昭人

経歴

- 昭和34年 新潟県生まれ。薬学博士。
- 平成4年から昭和薬科大学勤務
- 平成24年4月から平成28年3月まで山梨県森林総合研究所 客員研究員
- 平成25年4月から令和7年3月まで昭和薬科大学 教授、薬用植物園長
- 平成26年6月から令和6年5月まで公益社団法人日本植物園協会 理事
- 令和6年5月から公益財団法人高知県牧野記念財団 理事
- 令和7年4月1日 高知県立牧野植物園長 就任



Information

虹色に彩られた花の丘をのんびりさんぽしよう!

サイドイベントも盛りだくさん

憩いの広場としてこんこん山広場がオープンし、今年で7年目を迎えます。今年の春は「虹」と「風」をテーマに、ネモフィラをはじめ、ワスレナグサやトウキンセンカ、オトメザクラなど約60種類20,000株の植物で、こんこん山広場の丘を虹色のボーダーガーデンとして彩ります。穏やかに吹く心地よい風を感じながら、植物がたなびく景色のなかをゆっくりと散策してみませんか。華やかな丘と南園を望む展望デッキの2か所にはフォスポットも登場します。この時期にしか見られない色とりどりの花々の中で、心癒されるひとときをお過ごしください。

(中野善廣)



原っぱ図書館

こんこん山広場で春の草花をお楽しみください



【こんこん山花さんぽ～虹色の風～】

サイドイベント

- 音楽演奏
こんこん山広場に華やかな音色が響きます
4月12日(土)・13日(日) 各日①10:00～②14:00～
出演: hatao&nami
- 手づくりワークショップ
植物をつかった手づくり体験のワークショップを開催します
4月26日(土)・27日(日) 各日10:00～15:00
内容: ①高知県産ヒノキのコマ・風車づくり
②高知県産の柑橘を使ったスタンプづくり
③山野草のコケ玉づくり
④木こりとつくりろ!ヒノキ香るウッドコースター
- 原っぱ図書館(協力/高知こどもの図書館)
こんこん山広場の芝生の上でのんびり読書を楽しもう!
4月12日(土) 10:00～15:00 ※雨天時は中止または延期

News

今年の春はタンポポに注目!

タンポポ調査・2025高知県本調査が始まる

市民の皆さんと一緒にタンポポを調べて、地域の自然度を測る市民参加型調査「タンポポ調査・2025高知県」が令和6(2024)年2月1日(木)から始まりました。タンポポ調査は5年ごとに2年にわたり行われ、1年目の昨年は予備調査、2年目の今年は本調査として、昨年調査できていない地域を重点的に、県内を網羅的に調査します。昨年の調査では、これまでの予備調査で最も多い686名の方々にご参加いただき、県内1,688地点から5,051サンプル(有効サンプル数4,956)が集まりました。確認されたタンポポは、在来タンポポ10種類、外来タンポポ3種類の13種類で、在来のシロバナタンポポが最も多く、次いで外来のセイヨウタンポポが多く採集されました。予備調査の結果は、ニュースレターやタンポポ調査特設サイトで閲覧することができます。また、特設サイトでは、調査期間中、調査の進

捗状況がわかるよう随時結果をアップしています。

4回目の取り組みとなる今回の調査では、過去の調査結果と比較し、過疎化や田や畑の管理放棄により、在来タンポポがどのように消長していくかに注目しています。また調査項目を増やし、タンポポの生育環境や地面の状態をさらに詳しく記録することで、各タンポポの生育環境との関係がより明らかになることが期待されます。

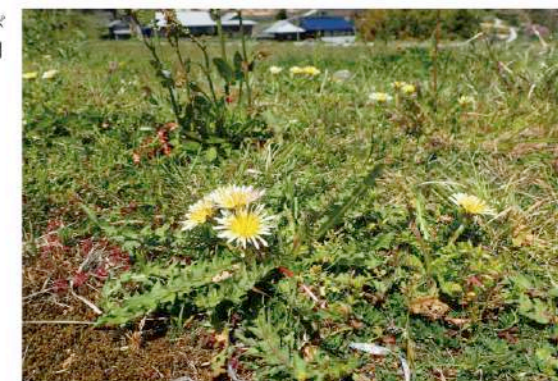
春の陽気に誘われて外に出たときは、タンポポを探してみてください。知っているつもりでも、よく観察すると面白いですよ!

(田邊由紀)

タンポポ調査のことが詳しくわかる特設サイトはこちらから→



中山間地に生育する在来タンポポ「キビシロタンポポ」



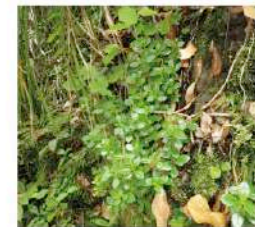
Report

日本植物園協会海外事情調査

ニュージーランドで実施

令和6(2024)年12月3日(火)~13日(金)の期間、ニュージーランド北島の海岸から亜熱帯、温帯、高山帯において、さまざまな植生帯の植物の実地観察とオークランド植物園の事情調査を行いました。

ニュージーランドは、約2億年前までは Gondwana 大陸の一部でしたが、大陸の分裂による地理的隔離によって非常に高い固有種率の植物相が形成されたそうです。オークランド郊外のワイタケレ自然保護区では、樹齢約600年のナンヨウスギ科のカウリマツをはじめとした多くの固有種を観察することができ、私は自生するサダソウの仲間のペペロミア・ウルウィレアナをニュージーランドで実地観察



ワイタケレ自然保護区
のサダソウの仲間
(Peperomia urvilleana)

できたときには非常に感動しました。プレオラ森林公園では、幹周が8m以上にもなるマキ科のポドカルプス・タラヤリムノキなどの高木のほかに、ヘゴ科ヘゴ属やタカラヅビ科ディクソニア属などの木生シダの仲間も多数確認できました。湿度の高い雲霧林でヘゴやシダ植物が生きて密生するようすは、当園の温室内で栽培管理する上で参考になりました。

オークランド植物園の入口



オークランド植物園は1982年に開園した比較的新しい植物園であり、面積は64haもあります。研究施設や温室は併設しておらず、教育普及やニュージーランド固有種の保全、オークランド市民をはじめとした来園者のための憩いの場の提供を主として行っており、家族連れやウォーキングをする人を多く見かけました。入園料は無料で、夏には50万人を超える人が訪れるそうです。職員は38人(うち園地管理は22人)のみで運営されており、植物園が管理する一部の保護林はそのままの状態を残したり、灌水はあえて行わず、作業車用の園路が整備されるなど、その人員で管理できる工夫がなされていました。

調査期間中、元当園職員の馬場由美子氏とご主人のキャメロン・キルガール氏には、現地の案内や植物の解説のみならず、さまざまな厚いサポートをしていただきました。海外植物の実地観察が初めてである私にとって、固有植物やさまざまな植生帯の植物を実見できたことは植物の多様性への興味が深まり、私が栽培管理を担当している温室内植物のみならず、園内全体の植栽や景観を構想する上で非常に貴重な経験になりました。(丹羽誠一)

News

(一社)土佐清水ジオパーク推進協議会と相互協力協定を締結

1月15日(水)、一般社団法人土佐清水ジオパーク推進協議会と相互協力協定を締結しました。同協議会とはこれまで、植物の保全活動や植物相調査など相互に協力してきました。特に県内で土佐清水市だけに分布するマルバテイショウソウの自生地保全活動においては、当園は保全のための科学的な情報の蓄積を、同協議会は教育普及啓発活動を行うなど保全のための体制づくりに取り組む、補完的な役割を果たしています。また、令和4(2022)年からは地域の植物相を明らかにするため、ジオパークのツアーガイドを含め、現地での調査、植物採集、研修会などを共同で行っています。

調印式では、今後もより一層連携を図り、調査・研究の実施、学術研究の推進および教育普及啓発、地域振興、人と自然が共生する持続可能な社会の実現に関し、相互に協力していくことを宣言しました。(前田綾子)



協定の調印式
(土佐清水市役所市長応接室にて)

Report

押し花アーティスト杉野宣雄氏の作品展を開催

令和5(2023)年と6(2024)年の春、世界的な押し花アーティスト杉野宣雄氏が来園し、作品制作のため牧野植物園内の植物を採集されました。植物を自然の色のまま美しい姿で留めた見事な作品が多数完成。昨年当園へ計15点を寄贈いただきました。

これらの作品をご覧いただき、押し花芸術の美しさに触れていただくことを目的に、2月15日(土)~24日(月・休)、植物研究交流センター1階にて作品展を開催しました。杉野氏は同時期に北川村「モネの庭」マルモッタンで採集した青い睡蓮などの植物でも押し花作品を制作しており、今回の展示では両園の作品計17点を展覧。思わず息をのむほどの美しさに来園者の皆さまは一様に足を止め、「見事やねえ...」「本当に押し花?絵画じゃないの?」といった感嘆の声があがっていました。

杉野氏が両園で採集した植物で制作した作品は現在モネの庭マルモッタンにて、4月12日(土)まで展示しています。当園では展示できなかった作品も多数ありますので、貴重なこの機会にぜひ一度足をお運びください。(橋本渉)



植物の美しさを留めた杉野氏の押し花作品

牧野植物園の活動

園地の管理 ~後編~

前号では北園を主に紹介しましたので、今回は南園の活動を紹介します。

南園は開園当初からある園地で、代々職員が造園、植栽を続けてきた歴史ある園地です。北に混々山、南に結綱山を配した中央の谷地形に、高知県特有の植生を観察できる石灰岩植生園や蛇紋岩植生園、50周年記念庭園や曲水の庭などで構成された観賞園、さらに温室、土佐寒蘭センターがあります。

観賞園

観賞園の中核である50周年記念庭園は、日本、中国、韓国など東洋に由来する植物によって、四季折々、空間が花で満たされることを目指している点が最大のこだわりです。春夏秋冬、花の数やボリュームが異なるため、植栽する植物の選定や数量、配置がとて重要で、世界的にも例のない庭園なので正解はなく、植栽品目や植え方はもちろん、既存樹木の庭園内での理想的な姿とのバランスを常に考えながら維持管理を行っています。

庭園の中心にあり水上観察路が設置されている池では、毎年年末の休園日を活用して、池の水をすべて抜き、1年間の汚れを取り除いています。その際、50周年記念庭園の水景にとって重要な要素であるハスの園芸品種の植え替えや種類に入れ替えも行っています。また夏の恒例イベント「夜の植物園」で人気の夜咲きの熱帯性スイレンは、冬越しのために池から引き揚げ、翌春の植え付けまでバックヤードで管理します。



ハスの仲間の植え替え

曲水の庭は平安時代に行われた行事、「曲水の宴」を模した庭園で、全長70m、高低差50cmの曲がりくねった細い流れをつくっています。春は桜草、初夏にはカエデ類の新緑といった四季の移り変わりを楽しんでいただけるように、増殖した桜草の株を植栽したり、カエデ類は草本類の日照条件を考慮しつつ個々の樹形を保つよう慎重に剪定しています。また傷んだ苔の植え替えや、苔の上に落ち葉がたまりすぎないように管理しています。

混々山や結綱山にあるツツジ類を中心とする木本類の大半は、40~50年以上前に植栽されたもので、これまで多くの来園者に親しまれてきました。過去の写真や植栽履歴を参考に、当時の姿や担当者の思いを想像しながら、今後へ繋げていけるよう計画的な土壌改良や施肥を行い樹勢の維持に努めるとともに、



樹木の生育バランスと遠くから見たときの景色を考慮した剪定を行っています。

観賞園は尾根や谷、池や湿地、岩場などさまざまな植生を再現しているため、各エリアのコンセプトを守りながら、植物のあるがままの姿を見ていただけるように、成長する姿を想像しながら常に新たな植物を導入し、花の谷を目指しています。

(福川直人)

温室

現在の展示温室は平成22(2010)年4月のリニューアル以降、世界の熱帯植物の多様性を知っていただくことを目的に植物を管理しています。アブラヤシやマホガニー、マレーフトモモなどの資源植物や、バオブパ類など乾燥地の植物、オオオニバスなどの水生植物を植栽し、修景や植物の健全な育成に努めており、特に開花と結実に注力しています。熱帯花木の花や果実などを写真や商品として目にする機会はありますが、それらがどのような植物体なのか、大きさも含めて体感していただきたいと思っています。

そのための作業に剪定があります。閉鎖空間で植物の成長も早いことから、日々こまめな剪定を行うことはもちろん、メンテナンス休園日を活用した大がかりな剪定作業では、温室の上部(地上約10m)に設置されたキャットウォークを使うこともあります。これらは樹形の維持と採光の確保などを目的として慎重に行っています。



ゾウタケの剪定

またバナナやカカオなどは積極的に人工受粉を行い、解説パネルと併せて展示しています。バナナは受粉しやすい時間帯があり、5月上旬の午前中には作業を行っている職員を見かけるかもしれません。さらにカカオやパラミツなどは、根域を温めることで結実や果実の充実をねらい、冬季に日々、お湯を使った灌水を行っています。また展示コーナーでは、1年を通してカトレア類やデンドロビウム類、パフィオペディルム類など約300種類を開花にあわせ展示しています。



バナナの人工授粉

温室は2月の「ラン展」、夏休み期間の「食虫植物展」、「オオオニバスにのろう!」や「夜の植物園」などの会場として皆さまをお迎えしています。遠く離れた熱帯地域の貴重で珍しい多種多様な植物を、引き続きたくさんの方に来園者にご覧いただけるように努めていきます。

南園では国内外の園芸品種など、ふだん見られない植物を通じて、驚きと発見をこれからも感じていただきたいと思っています。

(丹羽誠一)

見ごろの
花だより

Vol.50
Flowers in season

カノコソウ

[スイカズラ科]

Valeriana fauriei Briq.

北海道から九州、サハリン、朝鮮、台湾、中国のやや湿った草地に自生する多年草です。高知県内では分布が山間地に限られており希少です。

和名の由来は淡いピンク色の小花がたくさん集まったようすが、紅白の鹿の子紋りに見えることから。園内では薬用植物区で5月中旬ごろに、50cmほどに伸びた茎の先に花を咲かせます。地面に沿って匍匐茎を細長く伸ばして増殖するため、株分けで増やすことができます。また種子でも容易に繁殖し、綿毛のついた種子が風によって飛ばされ、周辺で発芽します。しかし、高温多湿な気候では夏に病気が発生しやすいことから、低地での栽培は大変困難です。

強く独特な香りがある根と根茎は、生薬名「吉草根」といい、

薬の原料として利用されます。日本では主に北海道で栽培、生産されていますが、需要が多いことから、ほかの冷涼な地域でも栽培が検討されています。またヨーロッパなどに分布するセイヨウカノコソウは、本種より大型でより多くの花をつけ、サプリメントの原料として利用されています。

5月の薬用植物区ではカノコソウをはじめ、シャクヤクなどさまざまな植物が開花します。県内では珍しい植物がどのような花を咲かせるのか、ぜひご覧ください。(岩本直久)

薬用植物区のカノコソウ



園地のできごと

Vol.50
The gardening
section's news

メンテナンス休園日には何してる?



カキツバタの掘り上げ

当園では年に数日のメンテナンス休園日を活用し、施設の修繕や園地内に大型車両を入れた剪定など、通常開園時には行うことができない作業を行っています。寒さの厳しい1月の休園日、展示館中庭の水盤に植栽している水生植物の中から、繁茂したショウブの移植と生育が芳しくないカキツバタの土の入れ替えを行いました。湿地の土壌環境を意識しつつ、日照条件やこれまでの生育状況を確認しながら、植え付け後の株の根張りが良くなるよう、赤玉土と腐葉土を泥状に練った用土を水盤1基あたり約300L投入しました。全身泥まみれになりながら大量の用土や残土を搬出入する大がかりな作業は、通常の開園時にはできない大変なものでしたが、成長した姿を思い描きながら一つ一つ丁寧に植栽しました。

中庭にある10基の水盤の水生植物のうち、現在は約半数が牧野博士ゆかりの植物です。数年後にはすべてを博士ゆかりの植物に入れ替え、皆さまにより多くの植物をご覧いただきたいと考えています。

(大沼喜人)

植物の
「なぜ?」

Vol.50
Plants' Q and A

Q | 緑色がない真っ白な植物が生きられるのはなぜ?

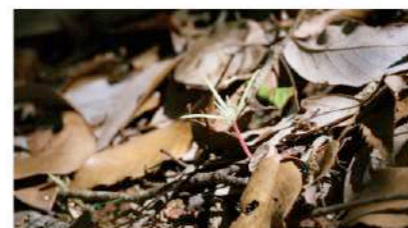
A | 菌と共生しているからです。

一般的に植物は、自分で光合成をして生きるためのエネルギーを稼ぐ独立栄養の生きものとして知られています。しかし、本来緑色である葉のなかに、時々まだらや筋状に白くなっているものや、緑色がまったくなく真っ白いものを見かけます。こうした斑入りの葉をもつ個体は園芸的に珍重されたり高値で取引されるなど根強い人気があり、また江戸時代にはブームにもなりました。白い部分では光合成ができませんが、ほかの葉が緑色であれば生存にはほとんど問題はないようです。

では全体が真っ白な植物はどうでしょうか?どうやって生きていくのでしょうか?真っ白な植物の代表例ギンリョウソウ(別名:ユウレイタケ)は、ツツジ科のなかでもギンリョウソウ亜科の植物で、この亜科に含まれる植物は葉緑素を持っておらず、菌からほとんどの栄養分をもらって生きています。自分で栄養をつくらなくていいので、葉が退化し奇妙なたちをしています。こうした菌に依存して生きている植物のことを「菌従属栄養植物」といいます。菌従属栄養植物はラン科やヒナノシャクジョウ科など、いくつかの仲

間でも知られており、種類によって「従属度」はさまざまです。

越知町の横倉山には、真っ白いモミの実生が毎年たくさん出るところがあります。おそらく種子に含まれる栄養分で何枚か葉が出せているだけで、すぐに枯れてしまうでしょう。ところが、北アメリカの森林では白い葉しか持たない木(セコイアの仲間)が知られており、周辺の同じ種類から栄養分をもらうことで生きているそうです。横倉山の白いモミの実生も、何十年、何千個、と出続ければ、いつか大きく育つ個体が出てくるかも、と妄想しています。(前田綾子)



白い葉を持つモミの実生



全体が青白いギンリョウソウ

身近な植物を
知る

Vol.53
Plants close to us

ワサビ

[アブラナ科]

Eutrema japonicum (Miq.) Koidz.

山地の清流に生える多年草で、北海道・本州・四国・九州に分布する日本固有種。全草に辛味と香気があり、野生ワサビの根茎は栽培ワサビのそれほどには太らず、節が詰まった細い円柱形で、その頂部から長い柄をもつ心形の根生葉を出します。3~5月、直立した花茎に総状花序をつけ、4枚の白色の花びらをもつ十字型の花が、下方から順に咲き、果実は長角果でじゅうず状にくびれます。

日本独自の香辛料として知られるワサビの名は、飛鳥時代の木簡に残されており、そのころは薬草であったそうです。最も古い香辛料としての利用は平安時代で、江戸時代以降に食文化の発展とともに、刺身や寿司、蕎麦の薬味として庶民に愛用されるようになりました。栽培の歴史をみると、茎や葉、葉柄などを「山菜」として利用した時代から、根茎を太らせて栽培するようになったのは16世紀後半と推定されています。

今では、「Wasabi」が日本発の香辛料として世界で認識され、需要が増えていて、海外でも栽培されています。ワサビ味のスナック菓子も人気で、ときに「ワサバイ」といわれていて…、ともあれ、日本発のワサビ人気は誇らしいものです。(藤川和美)



山間部の沢に生えるワサビは自生か、植えたものを区別するのは難しい

Staff's recommendation

スタッフに聞く!
植物園の見どころ Vol.53

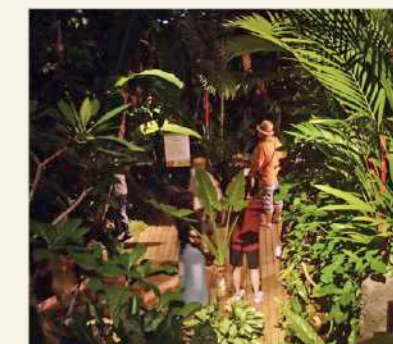
栽培技術課
多良竜太郎のおすすめ

夜の温室

私は以前、東アフリカ・タンザニアの農村に暮らしていました。夜にはタンザニア人の家族と火を囲み、他愛もない話をしながら夕飯を食べました。食事をする私たちの目の前には、月明かりに照らされたココヤシやパオバブをはじめとする熱帯植物が広がっており、これは一生忘れられない光景であるとともに、私が熱帯植物に心惹かれる理由になっています。

当園の温室は800種類を超える熱帯植物であふれ、多彩な花木や果樹は大変見応えがあります。とりわけ、エレベーター横にあるらせん階段からの樹木が重なり合って繁茂する眺めは絵画のように美しく、夕日に染まる時は楽園に迷い込んでしまったかのようなのです。

私が特におすすめしたいのは、ライトアップされた夜の温室です。明かりに照らされた植物を眺めながら、軽やかな水音に耳を澄ましていくと、次第に自然と一体化して優しさに包まれているような安心感を覚えます。みなさんもぜひ夜間イベント時に来園して、昼間と表情の異なる夜の温室の雰囲気を感じてみてください。



らせん階段から眺める夜の温室